’70年代、写真の媒体による表現

榎倉康二
河口龍夫
斎藤　智
野村　仁
眞板雅文
山中信夫
若江漢字

鎌倉画廊 コンテンポラリーアート
中央区銀座7－10－8 平方ビル1F
TEL. 03－574－8307

’70年代、写真の媒体による表現

1985年11月18日～11月30日

この展覧会に集められているのは、70年代に発表された、７人の美術家による写真を用いた作品である。1983年に東京国立近代美術館が「現代美術における写真」というタイトルで、内外の美術家の作品を集めた同種の展覧会を開催したことがあるが、今回のこの展覧会はそのミニ版的性格のものともいえよう。

美術家が表現の媒体として写真を用いるという現象は現在も散見されるが、70年代にくらべるとぐっと少なくなったように感じられる。この展覧会に選ばれた７人の美術家についてみても、故人となった山中信夫を別として、今も写真を用いて作品を制作しているのは半数である。そのことは、70年代に顕著だった美術家の写真への関心が、どういう特徴をもつものであったかを推測させる一助になるかと思う。あるいは写真への関心は一様ではなかったということを物語っているといってもいい。

榎倉康二、眞板雅文、河口龍夫、野村仁の４人は、パフォーマンス、あるいはイヴェントの記録としての写真というものへの関心が出発点となっている。榎倉の「予兆」はそれをもっとも端的に示す作品である。ただし、記録としての写真といっても、ただ単にパフォーマンスを写真の映像として残したものではなく、海岸の波の形と体形とを合致させた一瞬を撮ったこの作品は、榎倉のパフォーマンスが写真を前提とした、いわば写真のためのパフォーマンスであることを物語っている。

眞板の写真による作品も、ほぼ似たような発想から始まった。そのうち眞板は、写真そのものをイヴェント的展示――今でいうインスタレーションの一要素として組込むということをおこなうようになった。「流動」はそのヴァリエイションのひとつだが、この作品では波面を撮った写真と、海岸でおこなわれたパフォーマンスの物質的残像ともいうべき鉛の棒とが組合わせられている。

河口龍夫と野村仁は、時間の推移にともなう現象の変化の記録としての写真が出発だった。河口の「コスモス」は、夜空の星々と地球との空間的距離を時間の隔たりに置換したコンセプチュアルな性格の強い作品だが、その土台には時間という観念がなお根をはっていることが知られる。

野村は「ムーン・スコア」において、対象の時間的変化を記録するという方法に新展開を与えた。これは一定期間、毎夜月を撮った

中原佑介　NAKAHARA YUSUKE

フィルムだが、手もちのカメラで撮るためにフィルムの枠内の月の位置が変動する。それを五線紙上の楽符になぞらえ、月の写真から音楽をひきだしたのである。その音楽は一見ならぬ一聴に値すると思う。

さて、これら4人に対して、山中信夫、若江漢字、斎藤智の3人は違った角度から写真への興味を示した。それは映像と実在の世界との関係という視覚の問題への関心である。多摩川の水面を撮った写真を、再び多摩川の水面に投影するということをおこなった山中の初期の仕事は、それを直截に示している。映像と現実のズレへの注目が写真への関心の根底にあった。ついで、山中はピンホール・カメラによって写真を撮ることをやりだした。その写真は次第に巨大化してゆく。それは写真の映像の空間と現実の空間のズレへの着目を物語るものといえよう。今回の作品はパリ・ビエンナーレに出品され、山中の遺作となった一点である。

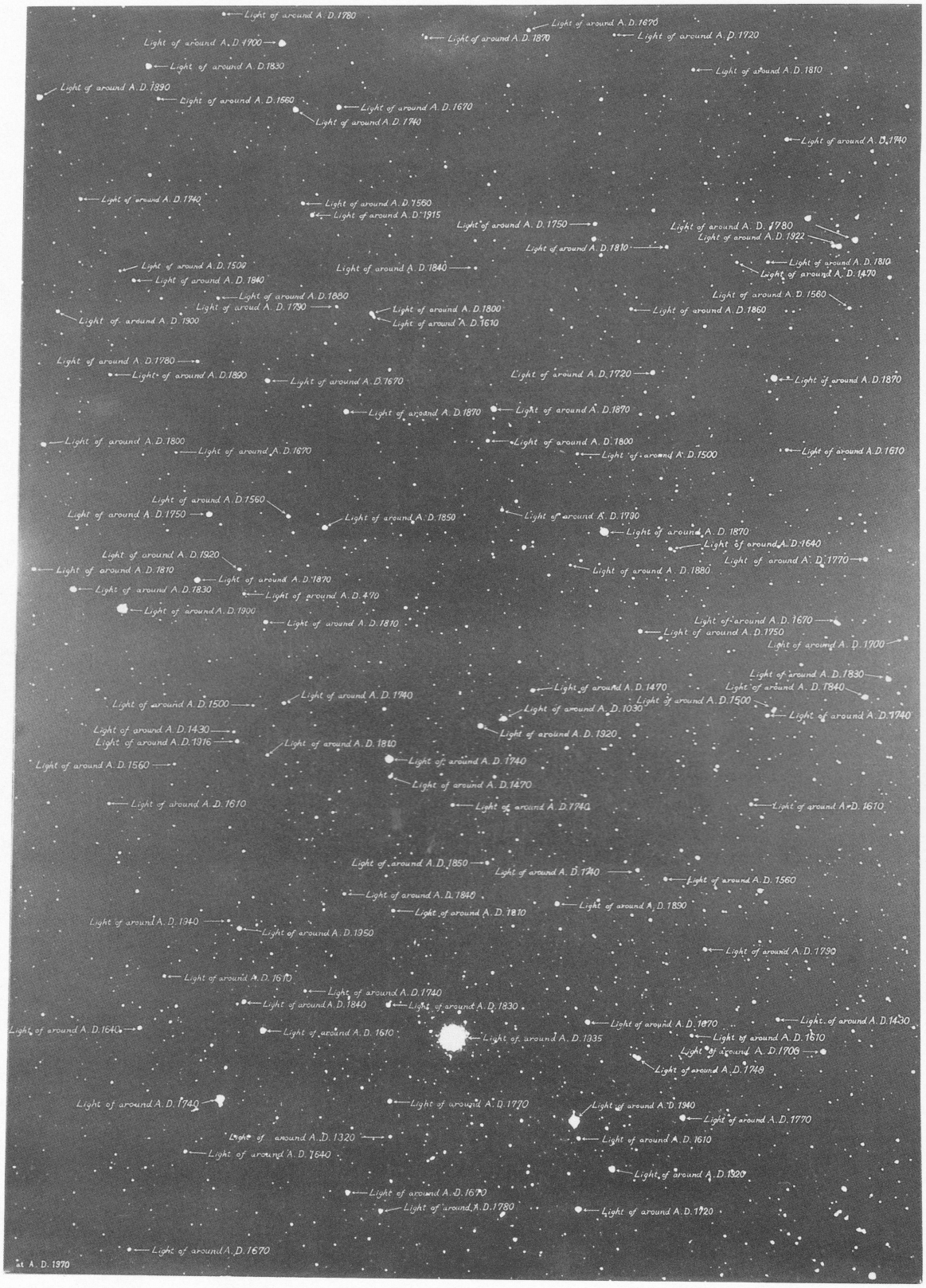
若江漢字も映像と現実の差異への関心をもちつづけているが、とりわけ写真に撮された物体と実在する物体との比較を中心的な課題としてきた。「Seeing & Looking」というタイトル自体が、若江の関心の特徴を物語っている。とりわけ、写真にある種の操作を加えてさらに写真に撮ることによって、撮された対象は奇妙な相似を示すようになる。

斎藤智は、空間と写真の関係に注目している。たとえば部屋の一隅の写真を撮り、その写真パネルを撮された部屋の一隅にややズラして置いて再度写真を撮る。こうして、空間の一隅にはいくつかのズレが形成される。それによって空間が視覚化されてゆくのである。この写真をさらに写真に撮るという方法において、写真は欠かせない媒体とならざるを得ない。

写真は原理的には同一のものの量産が可能だが、ここに見られる美術家の写真への興味には、そうした量産可能な媒体としての写真には向けられていない。絵画とは異なったイメージ生成の手段としての写真である。写真はその強い現実の再現能力によって、しばしば擬似現実化する。そこから現実との差異ということが視覚の問題として浮上してきたのである。一方記録としての写真は、ヴィデオがその能力を分担する度合が増大している。それに反比例して写真の利用が減少しているのが現状のように思われる。

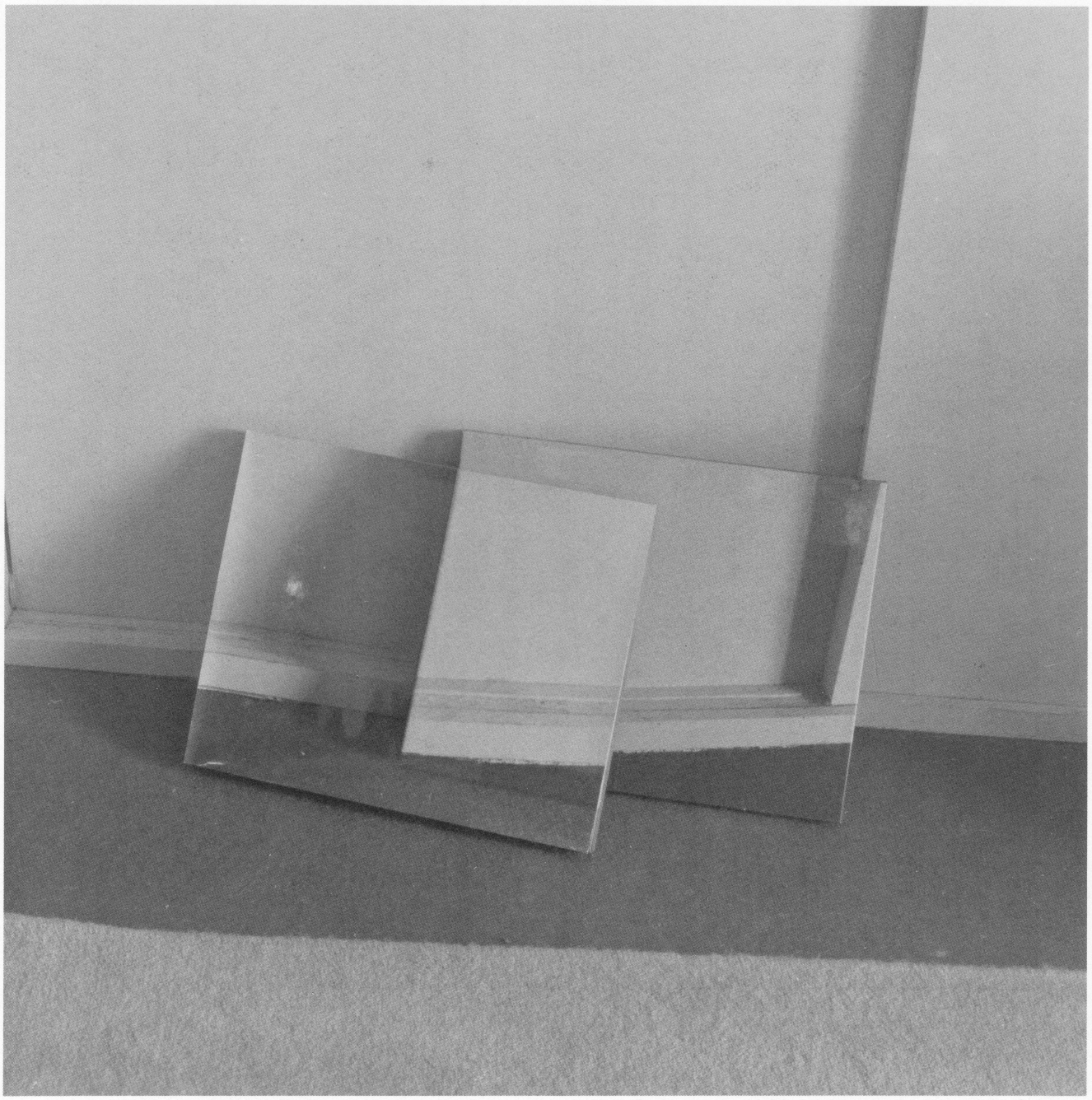
榎倉康二　ENOKURA KOJI

「予兆」肉体　1972



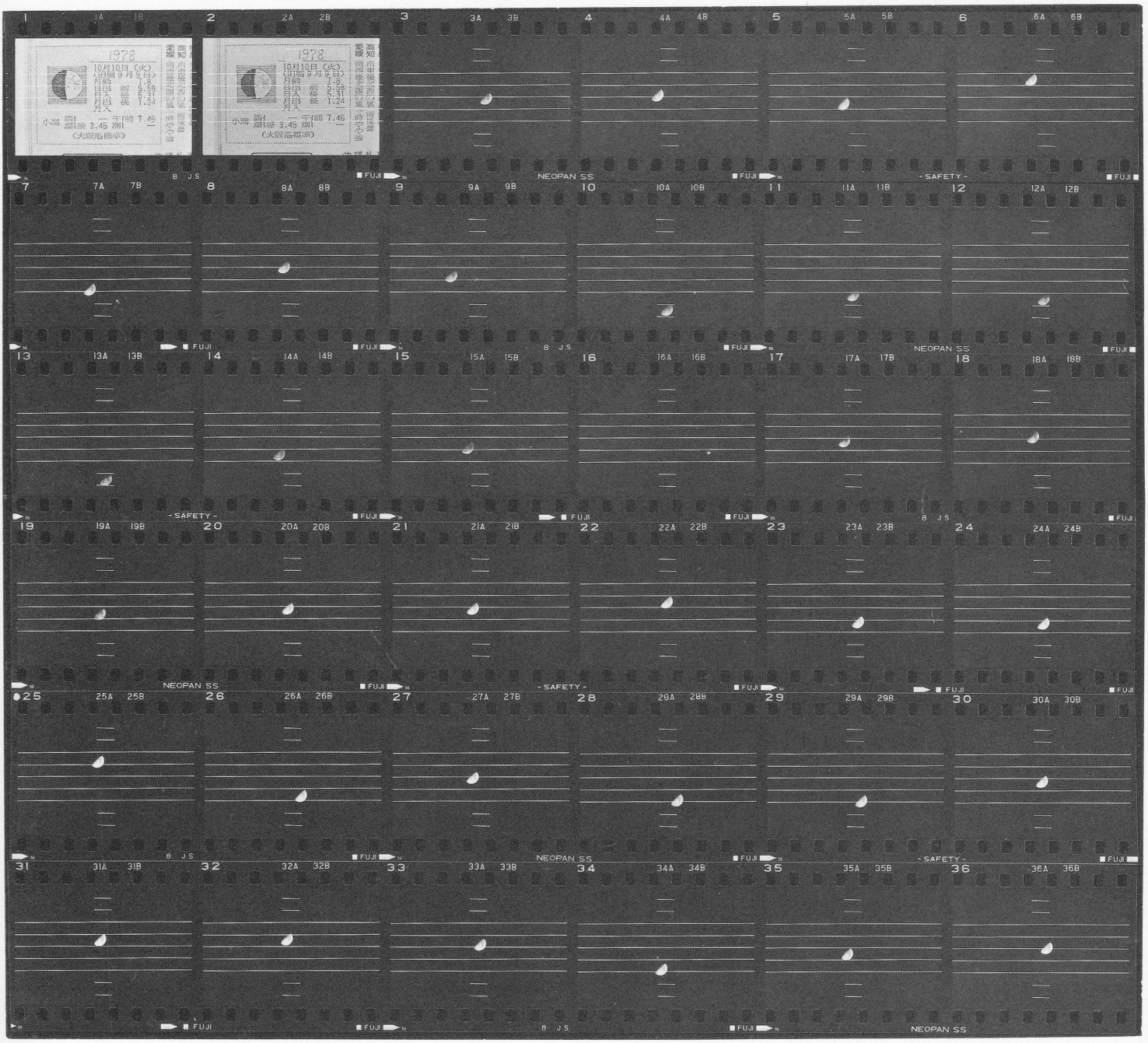
河口龍夫 KAWAGUCHI TATSUO

COSMOS 1974



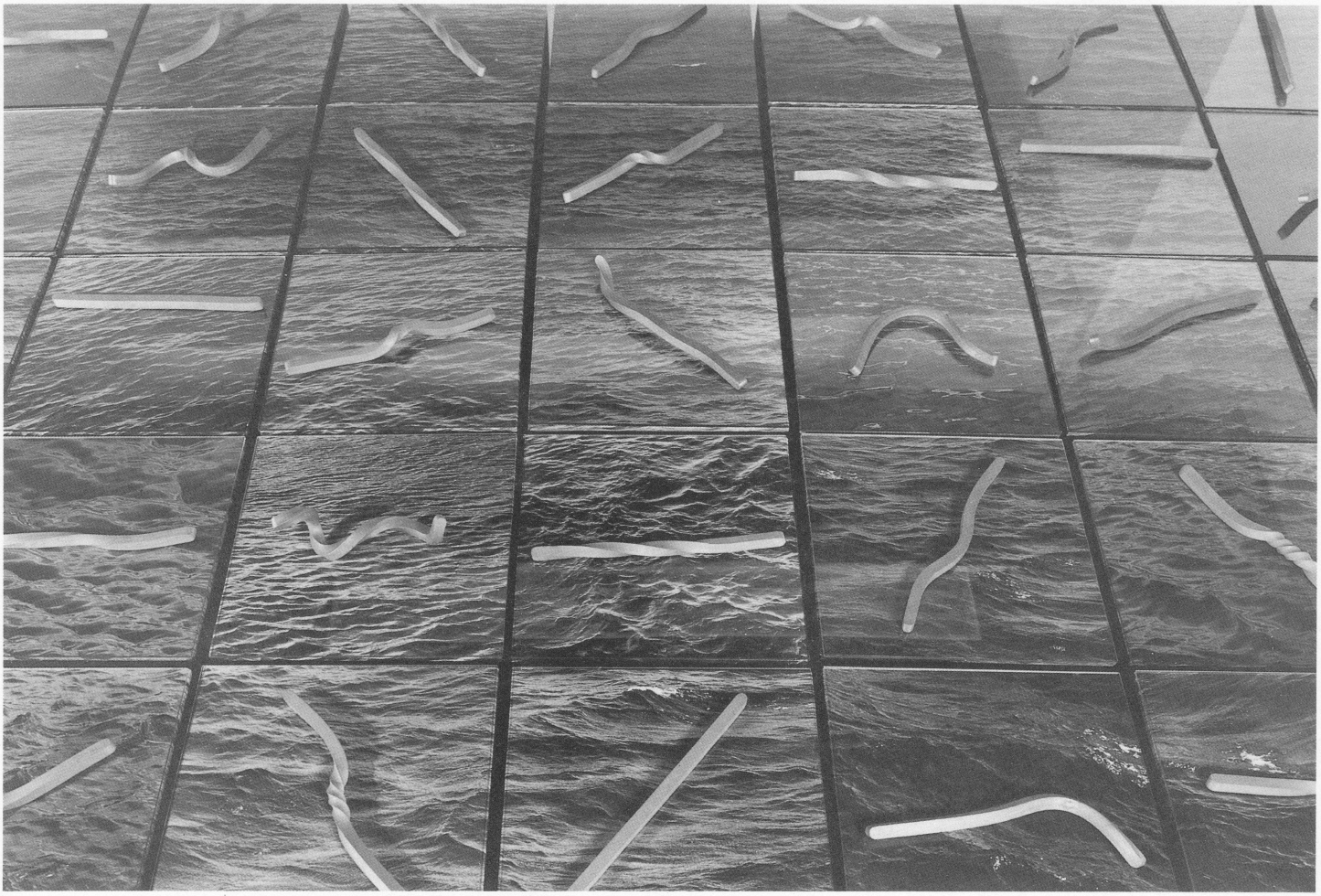
斎藤　智 SAITO SATOSHI

Untitled 75-e



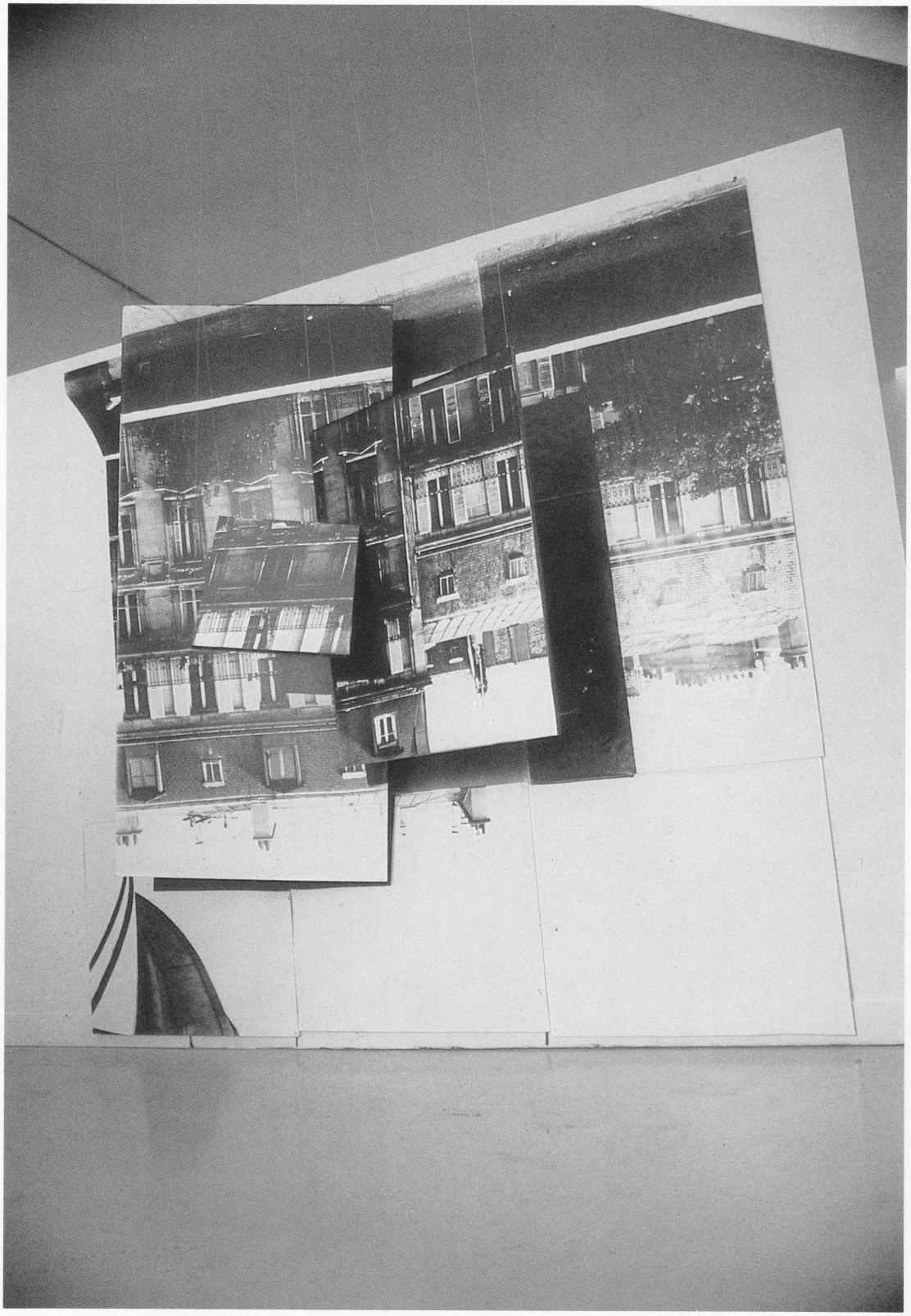
野村　仁 NOMURA HITOSHI

'moon' score

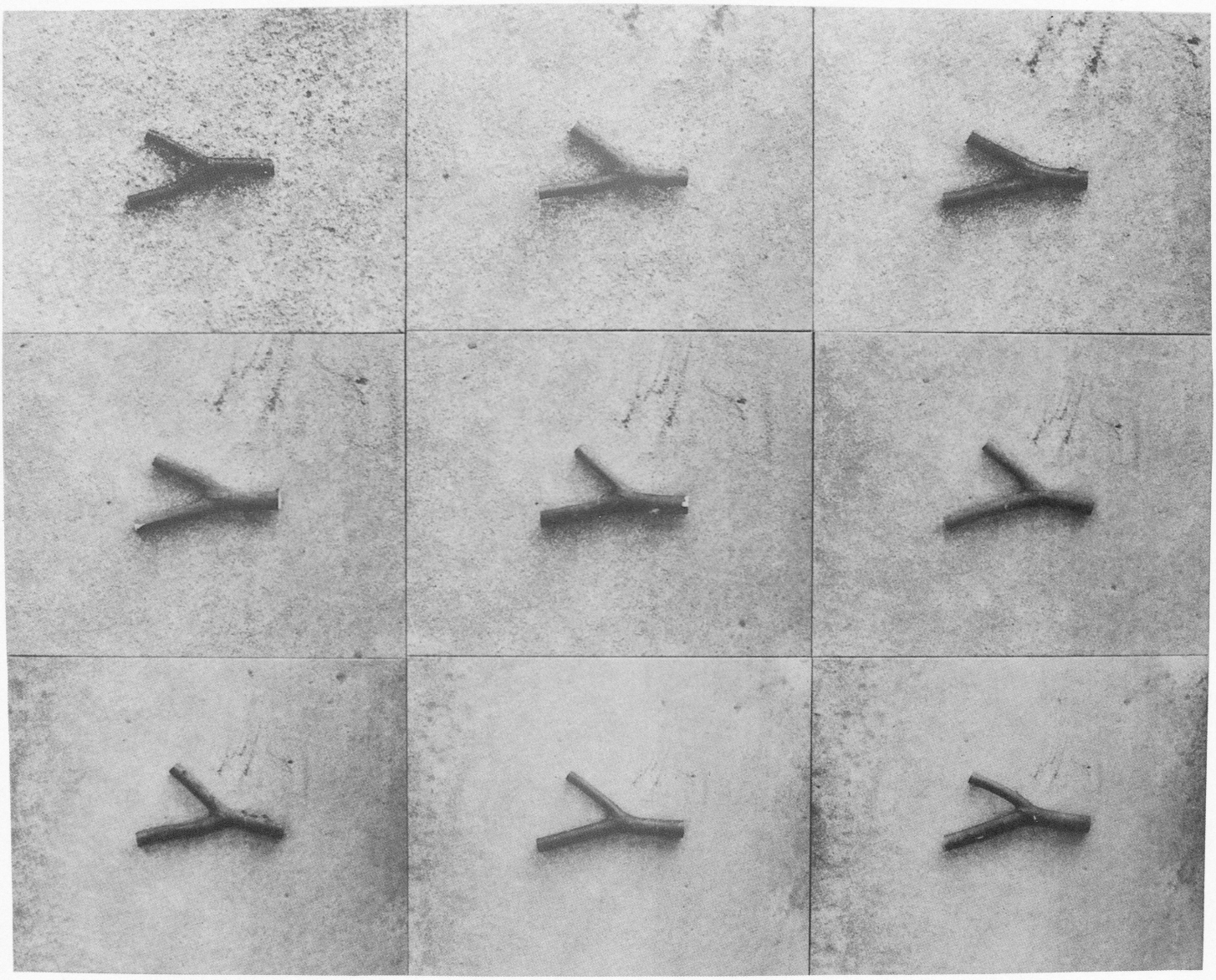


眞板雅文 MAITA MASAFUMI

流動No.3 1979



山中信夫 YAMANAKA NOBUO
カメラオブスキューラ・パリ 1982



若江漢字 WAKAE KANJI

"Seeing & Looking-branch-78"

榎倉康二　ENOKURA KOJI

1942　東京に生まれる
1969—1984　個展多数
1970　第10回日本国際美術展(東京都美術館)
1971　第7回パリ青年ビエンナーレにて留学賞受賞
1972　第8回東京国際版画ビエンナーレ(東京国立近代美術館)
1976　第2回シドニー・ビエンナーレ(オーストラリア)
1978　ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)
1980　ROSC'80(ダブリン建築大学・アイルランド)
1983　今日の日本美術ジュネーブ'83
1984　現代美術の動向III—1970年代以降の美術(東京美術館)
1985　パリ—東京・現代美術交流展(有楽町朝日ギャラリー)
1985　現代美術の40年

河口龍夫　KAWAGUCHI TATSUO

1940　神戸市に生まれる
1968　新しい芸術の動向〝現代の空間'68〟光と環境　最優秀賞受賞
1970　第10回日本国際美術展(東京都美術館他)
1972　個展　ENERGYビナール画廊(東京)
1973　第8回パリ国際青年ビエンナーレ(パリ国立近代美術館他)
1975　第13回アントワープ国際野外彫刻展(オランダ)
　　個展　南画廊(東京)
1982　第5回インド・トリエンナーレ(ニューデリー)
1983　現代美術における写真(東京国立近代美術館他)
1984　河口龍夫　青　雅陶堂ギャラリー竹芝(東京)
1985　河口龍夫　トアロード画廊(神戸)

斎藤　智　SAITO SATOSHI

1936　東京に生まれる
1967—1985　個展12回(シロタ画廊他)
1971　'72 '75 '77　ジャパンアートフェスティバル(東京)
1973　第12回サンパウロビエンナーレ(ブラジル)
1976　第1回パンパシフィックフォトビエンナーレ(オークランド)
　　第10回東京国際版画ビエンナーレ(東京国立近代美術館)
1977　写真と絵画の対話　チューリッヒ(クントハウス美術館)
1980　第5回ノルウェイ国際版画ビエンナーレ
　　第5回インドトリエンナーレ(ニューデリー)
1981　日本現代美術館　モールギャラリー(ロンドン)
1983　現代美術における写真(東京国立近代美術館他)

野村　仁　NOMURA HITOSHI

1945　兵庫県に生まれる
1970　第10回日本国際美術展(東京都美術館)
　　現代美術の動向展(京都国立近代美術館)
1970—1985　個展10回(ギャラリー16他)
1974　第11回日本国際美術展(東京都美術館)
1975　第9回パリ青年ビエンナーレ(パリ国立近代美術館他)
1979　ヴィデオ　東京から福井と京都まで(ニューヨーク近代美術館)
1982　第5回インドトリエンナーレ(ニューデリー)
1983　現代美術における写真(東京国立近代美術館)

眞板雅文　MAITA MASAFUMI

1944　旧満州に生まれる
1971　第6回国際青年美術家展(高輪美術館)
1973　今日の作家'73年展(横浜市民ギャラリー)
1974　北欧巡回日本現代美術展(デンマーク・ノルウェー・スウェーデン)
1975　'75今日の静物展(横浜市民ギャラリー)
1976　ベニスビエンナーレ'76(ベニス　イタリヤ)
1977　第10回パリビエンナーレ(パリ　フランス)
1981　日本現代美術展'70年代日本美術の動向(韓国)
1983　ガストン・バシュラール生誕100年記念展(フランス)

山中信夫　YAMANAKA NOBUO

1948　大阪に生まれる
1971　〝川を写したフィルムを川に映す〟(多摩川堤、東京)
1971—1981　個展9回(楡の木画廊他)
1972　第5回現代の造形「映像表現'72」(京都市美術館)
1973　〈実務〉と〈実施〉・12人展(ビナール画廊)
　　五人組＋4〈REVOLUTION〉写真展(ときわ画廊)
　　「今日の作家'73」展(横浜市民ギャラリー)
1974　北欧巡回現代日本美術展　ルイジアナ美術館(デンマーク)
1976　汎大平洋カラー写真ビエンナーレ
1979　サンパウロビエンナーレ
1982　パリビエンナーレ
　　ニューヨークにて客死
1983　現代美術における写真(東京国立近代美術館)

若江漢字　WAKAE KANJI

1944　横須賀に生まれる
1969　写真による作品を発表する
1969　'71現代日本美術展
1970　'75 '76　今日の作家展(横浜市民ギャラリー)
1973　サンパウロビエンナーレ
1974　東京ビエンナーレ
1975　ヨーロッパに滞在、制作発表する、個展(西ドイツ)
1977　写真と絵画の対話展(チューリッヒ美術館)　彫造を始める
1980　まがいものの光景展(8mの写真による歩道を発表)
1982　文化庁芸術家在外研究員としてヴッパータール総合制大学に学ぶ
1983　現代のリアリズム展
　　現代美術における写真
1983—1984　平和そして言葉…作品展(ヴォルスブルグ市美術館他)
1984　ボイスノートをアトリエ誌に12回連載する

'70年代、写真の媒体による表現
発行日　1985年11月18日
発　行　中村路子
製　作　鎌倉画廊

鎌倉画廊 コンテンポラリーアート
中央区銀座7-10-8平方ビル1F
TEL.03-574-8307

Kamakura Gallery 7-10-8Ginza, Chuo-ku, Tokyo Tel. 03-574-8307